

北海道師範塾 塾頭通信

「教師の道」

第619号 平成25年10月1日

イランカラプテ

(あなたの心に触れさせて)

「イランカラプテ」という言葉は、アイヌ語で「こんにちは」を意味していますが、今北海道では、この言葉を、ハワイの「アロハ」や沖縄の「めんそーれ」の様に、北海道に来られる観光客に対するもてなしの挨拶として広げようというキャンペーンが行われています。キャンペーンを実施している



イランカラプテ
「こんにちは」からはじめよう。

のは、国や道等の行政機関や大学の関係者らにより構成されている「イランカラプテキャンペーン推進協議会」で、今月の28日、新千歳空港でキャンペーンの開始式が行われました。今後、道内外の方々に「イランカラプテ」という挨拶を通してアイヌ文化に対する理解や関心が高まる事を期待しています。

さて、アイヌ語で「こんにちは」に相当する言葉は、「イランカラプテ」以外にも、地域によって「イナンカラプテ」、「イランカラフテ」、「イカタイ」といった言葉があるそうですが、萱野茂氏の編纂によるアイヌ語辞典によると、「イランカラプテ」は席に着いてからの正式な場面で使用される挨拶の言葉の様です。萱野茂氏によると、「イランカラプテ」は分解すると、

イ=それ(あなた)の ラム=心 カラプ=触れる テ=させる
となり、ここから「あなたの心にそっと触れさせていただきます」という意味になるのだそうです(萱野茂著「アイヌ語辞典」から)。

この「あなたの心にそっと触れさせて」という解釈については、学術的には確定的なものではないといわれていますが、しかし、アイヌの人々のメンタリティを伝えるのにこれ程相応しい表現はないように感じます。遠来の客を「アロハ」といいながら、両手を広げて歓迎するというスタイルは、明るくて、親しみがあってとても素晴らしいと思います。しかし、道産子は、どちらかというと派手なパフォーマンスは苦手な方が多いと思いますので、ハワイの真似が似合うとも思えません。

控えめだけれどジーンワリと暖かい、心を寄り添わせて裏切らない、そんなスタイルでお客様お迎えする「イランカラプテ」精神は、観光産業を大いに盛り立てようとしている北海道にとって、とても大切な事ではないかと改めて感じています。

(塾頭：吉田 洋一)